

爲悦衆生故
現無量神力
笹山普賢菩薩



妙法華山經王寺

◆笹山普賢菩薩（ささやまふげんぼさつ）

笹山普賢菩薩さまは、普賢菩薩さまとお稲荷さんのご利益が融合した不思議な神さまです。

普賢菩薩さまの「普賢」とは、「すべてに賢いもの」という意味です。六本の牙を持った白象に乗ってあらゆるところにあらわれ、命あるものを助けるアクティブな菩薩さまです。

文殊菩薩（もんじゅぼさつ）さまとともに、釈迦如来の左右に控えていることが多いです。「三人寄れば文殊の智慧」の文殊菩薩さまは「仏さまの智慧」を担い、対して普賢菩薩さまは「仏さまの修行」を担っています。仏さまのように悟りを開いて完璧な人間になるためには、「修行と智慧の両方が必要だよ、考えるだけの頭でっかちではダメ、修行で鍛えて強靱なだけでもダメ、両方バランスよくいこうよ」という意味をわかりやすく伝えるためでもあります。つまり得意分野を分業しながら人々を導いていくシステムです。

では、文殊菩薩さまと一緒にではなく、単独のときはどうでしょうか？

初期の仏教経典では「女性は絶対に成仏できませんよ！いいですね！」という現代では考えられない「謎の問答無用理論」がまかり通っていました。しかし『法華経』だけが唯一「女性だって仏さまになれますよ！いいですね！」と初めて説いたのです。その教えは多くの女性から熱狂的な支持を集めました。その『法華経』に登場していたのが普賢菩薩さまで、「辰・巳年の守護神、女性守護、修行者守護、息災延命、幸福を増やす」というご利益があるとされています。

す」というご利益があるとされています。

一方、お稲荷さんは、その名の通り「稲の神さま」です。

そもそも稲とは「命の根」を意味します。「稲が生る＝いなり」ということから、お稲荷さまと名づけられました。

稲作自体が大陸から伝わってきた技術です。そのため、お稲荷さんのルーツも大陸に由来され、元は「ダキニ」というインドの悪い鬼でした。なぜか「大黒さま」に怒られてから仏さまに帰依して、仏法を守る神さまになりました。このダキニ天はジャッカルに乗っていたのですが、中国に伝わったときに「これはキツネだろう」となぜかジャッカルからキツネに乗り変わりました。そして色も茶色から白キツネになります。キツネには昔から、人の寿命や作物の収穫量が分かたり、人を化かすなど、神秘的な動物として扱われてきました。春になると山から人里に降りてきますが、秋になるとまた山に戻ります。同様にお稲荷さんも田植えの時期に現れ、収穫が終わると山に戻ると言われていて、その類似性から、お稲荷さんとキツネが結びつきました。ほかにも、「たれ下がった稲穂がモフモフした尻尾に似ている」「米を食べるネズミを退治する」など諸説ありますが、そのような逸話には事欠きません。

お稲荷さまのご利益は、もともとの言われである五穀豊穡や豊作祈願に加えて、商売繁盛や頭がよくなって成績が上がる、恋愛成就などさまざまなご利益が得られます。

これらの特性を融合・合体・いいとこ取りし、「普賢さんでありながらお稲荷さんでもある」という不思議な神さま。それが開山上人の持仏であった「笹山さん」（＝笹山普賢菩薩）なのです。

経王寺が建立されたころには近くに学校はなかったので、周りに住んでいる子どもたちは、お寺で読み書きを習っていました。「寺子屋」というものです。（実は、経王寺の寺子屋が、現在の豊平小学校です）

その寺子屋に、この笹山さんも「学問の神さま・通う子どもたちの「発育円満」を護る神さま」としてお奉りされていました。

普賢菩薩さまとお稲荷さんの二つ合わさった笹山普賢菩薩さまの種々様々なご利益を求めて、近隣のみならずたくさんの方がお参りをされてきました。
今でもそのご利益はありますので、ぜひお参りを！

Q. なんでこのお堂にはたくさんの菩薩さまや神さまがいるの？

A. 奉納することによって、よりご利益をもらえるから

「行学院日朝上人像（ぎょうがくいんにっちょうしょうにんぞう）」を例にしましょう。

日朝上人は41歳のとき、総本山身延山久遠寺の第11世法主となられ、現在の基礎を築かれました。宗門統一・身延山整備拡張・学僧教育の確立・七百巻以上の著述・四十を超える寺院建立などの業績により「中興の祖」とされています。61歳の時、過労から両目を失明。しかしご自分の不徳として懺悔し、ご精進と経力により眼病は全快しました。目が見えるようになった上人は、亡くなる時に「法華経を信仰し眼病で悩む人がいたならば、守護して平癒させる」と誓いを立てられました。以来、「眼病平癒の日朝さま」と呼ばれております。

この行学院日朝上人像を奉納された方も眼病で苦しんでおられました。一生懸命にお祈りをしますが、当時の住職に「自分だけが治ろうと思って祈っていても治らないよ」と諭され、同じように苦しんでいる人のよりどころとなる御像を奉納されました。すると病も治るだけでなく、たくさんの方がお参りしてくださるようになりました。つまり「自分一人だけのご利益」ではなく「たくさんの方の為のご利益」を願うのが近道となるのでしょうか。そのような理由から奉納が増え、少しずつ神さまが増えていきました。

Q. 鎧兜の仏像とお公家さんみたいな衣装の仏像は誰？

A. 加藤清正公（かとうきよまさこう）です

加藤清正公は、戦国時代の武将です。清正公のお母さまが熱心な法華経信者であったため、清正公も熱烈な信者となり戦場では必ず「南無妙法蓮華経」のお題目が書かれた旗をひるがえして戦っていました。

領地の肥後国（熊本県）の治山治水、新田開発や貿易などに力を入れ、積極的な領地経営を進めたので、国は豊かになり、領民からは神さまのように慕われていました。知・仁・勇を兼ねる名将として知られ、武運が強かったことから、清正公大神祇（せいしょうこうだいじんぎ）として祀られ、清正公さまと呼ばれています。

そのご利益は、勝利獲得・試合競技の必勝、能力技術の強化向上、資格・試験の合格、職業安定・仕事運の上昇があります。

Q. 横にズラッと並んでる紙がくっついてるのは何ですか？

A. 21体の諸天善神さまの幣束（へいそく）です

幣束（へいそく）とは、神様の乗り物であり神様そのものであります。この21種類の神様は、和紙を切ったり折ったりして祀っています。日蓮大聖人から伝わる秘伝で、現在の住職が大荒行の二回目の修行で授かった秘伝です。秘伝ですので、ごく簡単にご紹介します。

【四天王(してんのう)】

持国天 (じこくてん)	東をまもる東方天。人の悪行を見張っています。
広目天 (こうもくてん)	西をまもる西方天。悪人を観察して仏心をおこさせる目を持っています。
増長天 (ぞうちょうてん)	南をまもる南方天。鬼神や龍王を眷属(けんぞく=仏や菩薩につき従う者)としています。
毘沙門天 (びしゃもんてん)	北をまもる北方天。戦勝の神様です。手にした宝塔から福德、財宝を授けます。

【歳徳神(としとくじん)】

年神とも言い一年の福德をつかさどる神さま。節分の恵方は、この神さまのいる方角です。

【八将軍(はっしょうぐん)】

① 太歳神(たいさいじん)	木星の精で、毎年その年の十二支の方角と同じ方位に位置します。
② 大將軍(だいしょうぐん)	金星の精で、殺伐を司り、八將軍第一と言われています。
③ 大陰神(だいおんじん)	土星の精で、太歳神の皇后とされています。
④ 歳刑神(さいきょうじん)	水星の精で地の神、刑罰をつかさどる神さまです。
⑤ 歳破神(さいはじん)	大陰神と同じく土星の精です。常に太歳神と反対の方角にいます。
⑥ 載殺神(さいせつじん)	金星の精で、載殺神は万物を滅する凶神であるといひます。
⑦ 黄幡神(おうばんしん)	羅候星の精で太歳神の墓と言われています。
⑧ 豹尾神(ひょうびじん)	計都星(おうし座のすばる)の精で万事不浄を忌み嫌う神さまです。

【水神(すいじん)】

水に関する神さまで水難を除く神です。井戸・水口・水道の神さま。

【聞神(もんじん)】

愚痴や自分勝手なお願い事を「聞いてくれる」神さまです。

【三光天子(さんこうてんじ)】

『法華経』で仏さまから教えを授かった法華経の守護神です。

【八幡大菩薩(はちまんだいぼさつ)】

武徳の神として、源氏の氏神として広く信仰されます。

【七曜九曜二十八宿(しちよう くよう にじゅうはっしゅく)】
九つの星の種類と、四つの方角を七種類に分けた神さま。

【大日天子(だいにってんじ)】
太陽を神格化した神さま。月天子と対をなします。万物を生育し一切衆生を活躍させます。

【大月天子(だいがってんじ)】
月を象徴する神様で日天子と対しています。夜の神として人々に喜びを与えます。

【明月天子(みょうがってんし)】
金星の象徴です。日天子に先立って世界を照らし、闇を破ることが任務です。

【法華八軸(ほっけはちじく)】
法華經の八卷本を著しています。

【天照大神(てんしょうだいじん)】
日本の皇祖神。鏡や笏をもつお姿です。

【春日大明神(かすがだいみょうじん)】
神仏習合の神です。

【玉女神(ぎょくにょじん)】
日蓮宗の修法にて、所願成就のために助力する守護の善神の一人。

【地神】
その土地を護り、法華經を受持する者を護る善神。